

品目	2015年度 (実績)		2016年度 (見込み)				2017年度 (見直し)		コメント				
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%	10億円	伸び率%			
			31,572	伸び率%	33,841	伸び率%							
総額	75,205	▲10.3%	31,572	▲19.1%	33,841	▲6.4%	65,411	▲13.0%	↑	67,040	+2.5%	3年連続の減少。	4年ぶりに増加に転じる。
IM 01 食料品	6,894	+0.5%	3,144	▲11.9%	2,972	▲10.7%	6,115	▲11.3%	→	6,101	▲0.2%	魚介類及び同調製品:数量が増加する品目もみられたが、円高により単価が下落し輸入金額は減少。 肉類及び同調製品:牛肉、豚肉、鶏肉で数量が増加するものの、円高などにより単価が下落し輸入金額は減少。 果実及び野菜:不作の国産品の代替需要の動きがみられたものの、円高により単価下落し、輸入金額は減少。	横ばい。 魚介類及び同調製品:国内市場の大きな拡大が見込めない中、さけ・ますの供給が世界的に減少することなどが影響し、輸入金額が減少。 肉類及び同調製品:牛肉、豚肉で数量が増加し、単価も安定して推移することから輸入金額が増加。 果実及び野菜:円高が一服し単価が安定して推移すると見込まれ、数量が増加し輸入金額が増加。
魚介類	1,569	+1.8%	713	▲9.9%	732	▲5.7%	1,445	▲7.9%	↓	1,427	▲1.3%	えび:主要生産国の病害(EMS、早期死亡症候群)が収まり供給が安定する中、円高の追い風を受けて数量は増加するが、単価の下落が大きく輸入金額は減少。 まぐろ:円高で手取りが増える台湾や中国などの漁船の操業が活発化し、数量は増加するが、単価の下落が大きく輸入金額は減少。 さけ・ます:チリでの赤潮被害や、それに伴う単価の上昇が敬遠され、数量・金額ともに減少。	えび、まぐろが増加するも、さけ・ますの減少が大きく、輸入金額は減少。 さけ・ます:供給量の減少が続く数量が減少。単価も高止まりの状態の中、輸入金額も減少。 えび:底堅い需要に支えられ数量が増加。EMSの発生は過密養殖を避けることでコントロールできている。単価も大きく下がらず、輸入金額も増加。 まぐろ:台湾や中国などの漁船が引き続き活発に操業することや、単価の高いさけの代替とする動きがあることから増加し、輸入金額は増加。
肉類	1,370	▲0.2%	652	▲8.8%	581	▲11.3%	1,233	▲10.0%	→	1,244	+0.9%	豚肉:差額関税制度を適用しているため円高の追い風は大きく受けられないものの、数量は増加。ただし、単価が下落するため輸入金額は減少。 牛肉:頭数が減少し価格競争力がなくなっている豪州産の減少を、頭数が回復し価格も下落している米国産がカバーして数量は増加。しかし、円高で単価が下落し輸入金額は減少。 鶏肉:国内での需要が旺盛なため数量は増加するが、円高と供給過剰で単価が下落し輸入金額は減少。	横ばい。 豚肉:出荷が増加する国産と競合するが、底堅い需要を背景に数量は増加。単価も安定的に推移し、輸入金額も増加。 牛肉:豪州産は頭数が回復せず増加しないものの、豪州産との価格差が縮まった米国産が増加し、総じてみると数量は増加。これにより輸入金額も増加。 鶏肉:競合する牛肉の単価が比較的安い上、輸入品の在庫調整の動きがあり数量は減少。需給の緩みで単価も上がらず、輸入金額も減少。
IM 02 原料品	4,551	▲17.7%	1,934	▲21.7%	1,924	▲7.6%	3,858	▲15.2%	↑	4,082	+5.8%	鉄鉱石価格や銅鉱石価格の下落と円高が輸入金額を押し下げる。	大幅な数量増加は想定されないが、銅鉱石価格の回復によって輸入金額は増加。
鉄鉱石	992	▲37.4%	378	▲29.5%	380	▲16.6%	758	▲23.6%	↑↑	866	+14.2%	下半期の粗鋼生産量は、上半期実績と同水準が見込まれるため、鉄鉱石消費量も上半期と同水準。価格の下落と円高により輸入金額は減少。	増加に転じる。鉄鋼生産は底堅く、鉄鉱石価格は回復へ向かう。
非鉄金属鉱	1,290	▲17.3%	562	▲24.4%	568	+4.0%	1,130	▲12.4%	↑↑	1,342	+18.7%	精錬所炉修日数が15年度より少ないが、稼働率が若干低下した影響で銅鉱輸入量は微減。銅鉱価格の下落と円高により輸入金額は減少。	精錬所炉修日数は増える見込み。銅鉱輸入数量は横ばい。銅鉱価格は緩やかに上昇し、輸入金額は増加。
IM 03 鉱物性燃料	16,068	▲36.0%	5,469	▲38.6%	7,738	+8.0%	13,207	▲17.8%	↑	14,319	+8.4%	再生可能エネルギーの拡大などにより、LNGや重油の数量は減少。石炭の価格は下半期に上昇に転じるも、原油価格下落と円高により全体的には低下し、輸入金額は減少。	原油価格の底打ちや若干の円安により単価が上昇し、輸入金額は増加。 ただし、国内燃料需要の趨勢的な減少や通年稼働する原発の増加などを受け、原油などの数量は減少傾向。
原油及び粗油	7,372	▲37.8%	2,719	▲37.3%	3,454	+13.8%	6,172	▲16.3%	↑↑	6,910	+11.9%	冬場の需要が見込まれるほか、足元の精製マージンも上昇していることから、下半期は上半期より数量が増加するも、原油価格の下落に伴い輸入金額は減少。	増加に転じる。石油製品需要が減少しているほか、各製油所再編および精製能力削減から、数量の減少傾向は続く。
石油製品	1,644	▲32.0%	470	▲49.8%	917	+29.9%	1,387	▲15.6%	↑↑	1,662	+19.8%	16年度末を対応期限とするエネルギー供給構造高度化第二次告示に向けた合理化への対応などにより、国内精製能力が減少に向かうと見込まれるが、燃料油需要の趨勢的減少などにより輸入金額は減少。	国内燃料油需要の趨勢的な減少により数量は微減。原油価格の上昇により価格は上昇し、輸入金額は増加。
LNG	4,548	▲41.4%	1,366	▲41.3%	1,631	▲26.6%	2,997	▲34.1%	↑↑	3,487	+16.4%	原子力発電所の再稼働により数量は減少。原油価格の下落に伴い価格も下落し、輸入金額は大幅に減少。	輸入金額は、原油価格上昇の影響により増加に転じる。数量は、通年稼働する原発の増加や再生可能エネルギーの伸びなどにより若干の減少。
LPG	578	▲38.6%	177	▲36.8%	238	▲20.2%	415	▲28.2%	↑	453	+9.2%	減少続く。工業用および都市ガス用途での需要増が見込まれるものの、家庭業務用および自動車用の需要は落ちる。原油価格の上昇により、下半期における価格は上半期より高く推移。	工業用および都市ガス用途での需要の伸びが16年度ほどには期待できず、数量減少。原油価格がプラスで推移するため、輸入金額は上昇。
石炭	1,864	▲8.6%	713	▲27.8%	1,467	+67.5%	2,181	+17.0%	↓	2,053	▲5.8%	下半期の価格上昇を主因に、3年ぶりに増加。ただし、一般炭では中国における生産抑制政策の緩和、原料炭でも供給制約の解消が見込まれるため、価格の騰勢は年度末にかけて徐々に落ち着く。数量は、鉄鋼生産の持ち直しに伴い原料炭の増加が続くが、夏場の火力発電伸び悩みなどから一般炭が頭打ちに。	価格反落を主因に再び減少へ。ただし、鉄鋼生産も火力発電も底堅く推移するも、数量は原料炭、一般炭ともに若干の増加となる。
IM 04 化学製品	7,778	+11.4%	3,446	▲12.0%	3,621	▲6.3%	7,067	▲9.1%	↑	7,453	+5.5%	医薬品:15年度に起きた価格上昇の沈静化により減少に転じる。 石油化学製品:下半期に一部国内エチレン生産設備の稼働が回復するため、上半期に比べ数量が減少。	医薬品:高齢化などを背景に再び増加に転じるが、医療費抑制策の影響があり緩やかな伸びとなる。 石油化学製品:円高観測の後退で輸入圧力は低下するも、原油価格上昇の影響などで増加する。
IM 05 原料別製品	6,821	▲3.8%	2,965	▲16.9%	2,922	▲10.1%	5,886	▲13.7%	→	5,901	+0.2%	鉄鋼や非鉄金属の市況は緩やかに回復し、繊維製品の数量は増加しているが、円高の影響が大きく、輸入金額は減少。	非鉄金属(特に白金族)や繊維製品の数量は減少するが、鉄鋼価格の回復によって相殺され、輸入金額は横ばい。
鉄鋼	807	▲15.5%	332	▲21.3%	330	▲14.1%	662	▲17.9%	↑	718	+8.4%	鋼材の数量は急増しない状況が継続。鉄鋼価格は15年度下半期から回復しているが、円高の影響を受け輸入金額は減少。	輸入鋼材の増加は限定的。16年度下半期の原料炭高騰の影響を引きずり価格が上昇し、輸入金額は増加。
非鉄金属	1,562	▲10.9%	663	▲23.2%	605	▲13.4%	1,268	▲18.9%	↓	1,219	▲3.9%	アルミニウム:数量は国内在庫の過剰感から減少基調が継続。地金価格は回復傾向にあり、輸入金額の減少幅は15年度より緩やかに。 白金族:自動車触媒需要の減少などにより数量は減少。プラチナ・パラジウム価格の下落と円高も影響し、輸入金額は大幅に減少。	アルミニウム:輸入金額は微増。国内在庫が適正水準になり、数量は横ばい。地金価格は引き続き緩やかに上昇。 白金族:16年度ほどの落ち込みには至らず。数量は引き続き減少傾向にあるが、単価は緩やかな上昇が見込まれる。
織物用糸・繊維製品	965	+1.8%	430	▲12.3%	450	▲5.2%	881	▲8.7%	↓	870	▲1.2%	円高を受けて産業資材用製品の海外調達も拡大。衣料品市場縮小による衣料用の輸入低調をカバーし、数量全体では小幅増。しかし、円高は一方で価格を大きく押し下げる。結果として、輸入金額は減少。	円高に歯止めがかかり、価格はおおむね下げ止まり。しかし、数量は衣料用の減少が続くもとて産業資材用の増勢も一服。この結果、輸入金額の減少が続く。
非金属鉱物製品	764	+2.9%	330	▲15.6%	366	▲2.1%	696	▲9.0%	→	701	+0.8%	自動車生産台数は横ばいだが住宅着工戸数が増加しガラスの輸入数量は増加。主な輸入先である中国の過剰生産による価格下落と、円高による価格押し下げて、ガラスの輸入金額は減少。	自動車生産台数は横ばいだが住宅着工戸数が減少に転じるため、ガラス輸入数量はやや減少。円安が少し進行するため、ガラスの輸入金額はほぼ横ばい。
IM 06 一般機械	6,971	+2.7%	3,045	▲13.9%	3,089	▲10.0%	6,134	▲12.0%	↓	6,073	▲1.0%	電算機類(含周辺機器)はパソコンからスマートフォンへの需要シフトという趨勢的要因もあり、減少傾向は続く。そのほか輸入減少が続く。	円高一服によりマイナス幅は大きく縮小するものの、減少傾向は続く。
電算機類(含周辺機器)	1,931	▲4.7%	777	▲19.5%	834	▲13.7%	1,611	▲16.6%	↓	1,579	▲2.0%	一段と落ち込む。円高により価格の下落率が拡大。数量面でも、15年春のパソコンOSサポート終了に伴う買替需要は一巡したが、パソコンからスマートフォンへの需要シフトという趨勢的要因もあり、減少傾向が続く。	減少に歯止めがかからず。価格は、円高一服によりマイナス幅が縮小するが、安価なエントリーモデルが選好される中で緩やかに下落。数量も、スマートフォンなどの競合が続く中で減少が続く。
IM 07 電気機器	11,796	+1.6%	5,067	▲13.9%	5,080	▲14.0%	10,147	▲14.0%	↓	10,023	▲1.2%	主力の通信機、半導体等電子部品(特にIC)などの輸入は伸び悩み15年度上半期の落ち込みが続く。 通信機は総務省による実質ゼロ円販売の規制などで伸びず。	ICやトランジスターの輸入数量が緩やかに持ち直し、通信機は買替サイクルの伸びなどで需要は増加。
半導体等電子部品	2,881	▲1.0%	1,215	▲17.6%	1,169	▲16.9%	2,385	▲17.2%	↑	2,417	+1.4%	PCや家電製品などの国内需要の落ち込みによりICの輸入数量が落ち込むと同時に太陽光発電の光電地モジュールの輸入減少が継続し、全体として大きく落ち込むこととなる。	家電製品などの国内需要の落ち込みが一服するため、ICやトランジスターの数量が緩やかに持ち直し、微増になる。
通信機	2,911	+1.7%	1,221	▲13.9%	1,355	▲9.2%	2,576	▲11.5%	↓	2,533	▲1.7%	金額にして品目の6割を占める携帯電話機及び端末機器が、総務省による実質ゼロ円販売を規制する2016年3月の「スマートフォンの端末購入補助の適正化に関するガイドライン」策定および10月の行政指導の影響、端末高価格化および高機能化による買替サイクル長期化などを受け、数量減少。ネットワーク通信機器は数量横ばい。	携帯電話機及び端末機器については16年度と同様の状況だが、減少は小幅になる。ネットワーク通信機器については、2020年にサービス開始が予定されている第五世代移動通信システムに係る需要発生は18年度以降となる見込み。
IM 08 輸送用機器	3,090	+2.1%	1,495	▲3.1%	1,475	▲4.7%	2,970	▲3.9%	→	2,958	▲0.4%	自動車は国内市場の縮小にもかかわらず輸入車のシェア増加傾向が続き、数量が増加。航空機はデリバリーが15年に集中したことの影響で減少が続き、全体として輸入金額は減少。	16年度と同傾向が続き、減少。
自動車	1,127	▲0.1%	595	+7.3%	596	+4.0%	1,191	+5.7%	↑	1,239	+4.0%	エコカー減税の対象となるクリーンディーゼルの販売が好調。欧州メーカーが、高級車・スポーツカーだけでなく、小型SUVや中価格帯の量販車にラインアップを拡充したことも増加の一因。	独メーカーの中型車へのラインアップ拡充で輸入車のシェア拡大。
航空機類	726	+1.9%	351	▲8.3%	314	▲8.5%	665	▲8.4%	↓↓	582	▲12.5%	航空機は受注による計画生産。一部キャリアの機種更新の集中とLCC用機種のデリバリーが15年度をピークに収束に向かい、更新注文主体に移行。	16年度同様、機種の定期更新に移行しており、数量は30%減。
IM 09 その他	11,237	+3.9%	5,007	▲11.2%	5,020	▲10.3%	10,027	▲10.8%	↑	10,130	+1.0%	その他雑製品(除く衣類及び同付属品):はき物やがん具及び遊戯用具は個人消費の低調を背景に減少。科学光学機器やプラスチック製品は高水準を維持する。	その他雑製品(除く衣類及び同付属品):国内景気の緩やかな回復継続と為替相場のほぼ横ばいを前提に、16年度並みを見込む。
衣類・同付属品	3,382	+1.7%	1,497	▲13.5%	1,385	▲16.2%	2,882	▲14.8%	↓	2,854	▲1.0%	7年ぶりの減少。消費低迷や「爆買い」効果の低下により数量の減少が続く上、円高に伴い価格も下落。	減少が続く。円高一服で価格下落に歯止めがかかるほか、数量面でもスポーツウェアなど一部分の回復が期待できるものの、衣料品需要全体では低迷を脱せず。

*2016年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している